

## 寄稿 4

# くどやま芸術祭について

九度山町役場産業振興課  
課長補佐

辻本 昌弘



## 1. 和歌山県九度山町ってどんなところ

和歌山県北東部に位置し、南は真言宗の開祖弘法大師空海が開いた高野山と接する人口3,800人の非常に小さな町です。田舎ではありますが、大阪から南海電鉄を利用すると1時間足らずで訪問することができる「日本一便利な田舎」と言えます。豊かな自然に恵まれ、観光ホームページでも“ゆったりと流れる時間の中で、都会の喧噪を忘れさせるひとときを過ごしませんか？”と紹介しているとおり、まさにそれを体感できる地域です。

2004年にユネスコの世界遺産に登録された慈尊院、丹生官省符神社や町石道などがあり、戦国の名将・真田幸村が関ヶ原の敗戦後、大坂の陣に出立するまでの14年間蟄居した地としても知られ、歴史文化が息づいています。



それら歴史遺産とアートが融合した独創的な芸術イベントが「くどやま芸術祭」です。

## 2. そもそもなぜ九度山で芸術祭が始まったの？

2015年、大河ドラマ「真田丸」の放送決定を祝し、九度山町に隣接する橋本市出身の大西高志さんが本町に作品を寄贈したことがきっかけです。その縁で、町が大西さんの個展を開催。個展で町長と会った大西さんが“芸術祭”を提案。もともと芸術に造詣の深かった町長と意気投合。翌2016年、大河ドラマ放送と同時に「くどやま芸術祭」を初開催しました。

以降、芸術と気軽にふれ合える「くどやま

アートウィーク」を継続し、2021年、満を持して2回目となる「くどやま芸術祭2021」を開催。期間・規模・質、どれをとってもレベルアップしており多くの来場者で賑わいました。ここから、本格的な芸術祭を目指し、ビ

エンナーレ形式で運用しています。準備期間をしっかりと設定することで、受入体制を充実させるとともに、作家の制作期間にもゆとりが生まれ、“本格的な芸術祭”に恥じない内容となってきています。

#### 【芸術祭の変遷】

##### 2016年 くどやま芸術祭2016

会期 ⇒ 9月3日（土）～10月2日（日）30日間  
招待作家 ⇒ 22名／20箇所  
公募作家 ⇒ 23名／16箇所  
ライブペイント ⇒ 9名／9箇所



##### 2017年 くどやまアートウィーク2017

会期 ⇒ 10月1日（日）～10月15日（日）15日間  
招待作家 ⇒ 11名／10箇所  
公募作家 ⇒ 7名／7箇所  
ライブペイント ⇒ 4名／4箇所



##### 2018年 くどやまアートウィーク2018

会期 ⇒ 9月29日（土）～10月14日（日）16日間  
招待作家 ⇒ 28名／28箇所  
公募作家 ⇒ なし  
ライブペイント ⇒ 3名／3箇所



##### 2019年 くどやまアートウィーク2019

会期 ⇒ 9月29日（日）～10月14日（月祝）16日間  
招待作家 ⇒ 29名／34箇所  
公募作家 ⇒ なし  
ライブペイント ⇒ 3名／3箇所



##### 2020年 コロナのため中止

##### 2021年 くどやま芸術祭2021

会期 ⇒ 9月19日（日）～10月17日（日）29日間  
招待作家 ⇒ 22名／25箇所  
公募作家 ⇒ 23名／17箇所  
ライブペイント ⇒ コロナのため中止（予定は6名／6箇所）



## 2023年 くどやま芸術祭2023

会期 ⇒ 9月17日（日）～10月29日（日）43日間  
招待作家 ⇒ 14名／20箇所  
公募作家 ⇒ 24名／20箇所  
ライブペイント ⇒ 5名／5箇所



### 3. 芸術祭に対する想い

大西さんには、この芸術祭の総合企画を務めていただいています。作家の本分である制作活動を行いながら、芸術祭をプロデュースすることは並大抵ではありません。芸術祭で多くの方に「本物のアートを見てほしい！」という強い想いがあるからこそ、続けられるのではないのでしょうか。そして、よく次のような話されます。



-----  
アートにはいろんなジャンルがあります。私なら日本画というジャンルで絵を描きますが、立体的な造形物のアートであれば、ガラス・陶器・鉄など、実にいろいろなものがあります。そして、そこには「多様性」があることを知ってもらいたいのです。

たとえば、お子さんが勉強やスポーツを頑張っている中、どこかで壁にぶつかることがあると思います。そういったときに思っているのは、道は決して一つだけでなく、いろんな道があるということ、広い世界があるということです。そう思うことができれば、もし物事がうまくいかなかったとき、新しい道を見つけ出そうとし、楽しさへ繋げていくことがきっとできるはずです。

くどやま芸術祭で、さまざまな表現手法のアートを見て、そういったいろんな道があるんだということを感じていただきたいと思います。

町長も、常々「本物を見てほしい！」と話されます。トップ二人の熱い想いが周りに伝わり、さまざまな人が集まってきました。

### 4. こんな思いが詰まった「くどやま芸術祭」！誰が支える？

住民有志で組織される実行委員の皆さんの存在が大きいです。町内作家であったり、水道屋さんであったり、電気屋さんであったり、土建屋さんであったり、ここにも多様性が見られます。実行委員は、作家と地域住民とをつなぐパイプであり、作家の要望を実現する大道具スタッフのような存在です。

作家から提出された展示計画書に沿って、それぞれがそれぞれの仕事で培った技術をフル活用しながら会場づくりをします。展示会場の掃除はもちろん、希望される展示台を制作したり、場合によっては仕切り壁をつくったり、照明を設置したり、展示作品の魅力を最大限引き出せるよう、寝る間も惜しんで準備を行います。くどやま芸術祭の展示会場一つ一つが、作家と実行委員との共同作品と言えます。ともに考え、ともに創るからこそ、



九度山オリジナルの素晴らしい作品ができあがるのだと思います。

大西さんの提案で芸術祭が始まり、その輪は確実に広がっています。最初のころは、芸術祭に戸惑いを見せていた地域住民も、最近では「今年は開催するの?」「また会場として活用してよ。」「うちのシャッターにも絵を描いてほしいなあ」など嬉しいお声もいただくようになりました。イベントとしての歴史は浅いですが… 春の「真田まつり」、秋の「収穫祭」と並んで、本町を代表するイベントに成長したのではないかと実感しています。役場だけでは、絶対に成し遂げることはできません。作家、地域住民、そして役場関係者、皆さんに感謝です。

## 5. 九度山を代表するイベントとして定着してきた芸術祭に求められることは?

一歩踏み込んで、地域振興を推し進められるよう「くどやま芸術祭」を見つめ直す時期に差し掛かっているのではないかと感じています。本町の基幹産業は、やはり農業です。ただ、農家人口の減少、農業従事者の高齢化、後継者問題など課題は山積んでいます。農業に次ぐ産業もなく、町外への転出者が減る気配はありません。過疎化傾向が著しく、世帯構成も高齢化してきています。新しい産業の創出および担い手の確保は必須という状況です。

また、商店街の空洞化も深刻です。少子高齢化により、まちなかの空き家・空き店舗は増加傾向にあります。

↓この課題を解消するために!

人口減少に歯止めをかける雇用創出の一環として、“芸術の産業化”に努めたいと思っています。芸術を産業に!とはどういうことか?商店街を活性化するため、店舗を誘致しようにもお客が来なければ店舗を維持することは、現実的に難しいでしょう。そこで、お客が来なくても成り立つ生産者誘致という観点から、作家によるアトリエ開設がしやすい環境を町全体で創り上げ、作家が集う「芸術

の町=九度山町」を実現できればと考えます。

まずは、町内において制作活動をしている作家に目を向け、作品を発表する機会を提供します。くどやま芸術祭への出展が、今後の制作活動の励みになるような芸術祭を開催できるよう努めなければなりません。そのためには、くどやま芸術祭への出展が作家の価値を高める芸術祭である必要があり、くどやま芸術祭のブランド化が必須と考えます。やはり、第一線で活躍しているプロ作家を招聘し、クオリティを上げるとともに、周知を強化することで「作家の登竜門は、くどやま芸術祭への出展」と認知されるようになることが重要です。

そして、今まで以上に作家と住民の交流を強化し、将来の九度山を担う子どもたちに芸術の素晴らしさを知ってもらう機会を創出しなければなりません。子どもたちが成長し、あらたに町内で制作活動をする作家となれば「芸術の町=九度山町」が現実味を帯びてくると考えます。

アトリエが開設されれば、商店街に賑わいが戻ると考えるものの、他人に空き家・空き





店舗を貸し出すことに不安を感じている住民（家主）が多いのも事実です。芸術祭を継続的に開催することで、住民の空き家・空き店舗の活用に対する不安を解消するとともに、作家の本町における制作意欲を向上させます。その相乗効果でお互いの移住・定住に対する抵抗感を取り除き、現存する空き家・空き店舗を恒久的に活用できればと考えます。

## 6. 人を惹きつける「くどやま芸術祭」！今年の開催は？

九度山の歴史遺産と現代アートが融合した異空間に触れていただき、皆さまにとって忘れられない、関わるすべての方々に楽しんでいただける芸術祭を目指します。ぜひ、この秋にはご来町いただき、「芸術と歴史文化が融合する町＝九度山町」をご堪能ください。

くどやま芸術祭2025

### 【会期】

2025年9月14日（日）～10月26日（日）  
原則、会期中は無休での開催となります。

ただし、店舗・施設内での展示は、各店舗・施設の営業日のとおりです。

### 【時間】

10時00分～16時00分

ただし、店舗・施設内での展示は、各店舗・施設の営業時間のとおりです。

### 【料金】

無料

### 【エリア】

- 「真田のみち」商店街を中心とした“まちなかエリア”の各所
- 「慈尊院」「丹生官省符神社」を中心とした“世界遺産エリア”の各所



**くどやま  
芸術祭  
2025 KUDOYAMA  
ART FESTIVAL**

くどやま芸術祭2025公式ウェブサイト：  
<https://kudoyama-art.com/>